平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

1. テーマ

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援の充実
 ～ 小・中連携を軸として ～

2. 問題意識・提案背景

小城市では、「子どもサポーター」と呼称する特別支援教育支援員の適正な配置，相談支援ファイルの活用や「小城市子ども支援センター」を軸とした関係機関との連携強化など，特別支援教育の体制整備を推進してきた。平成26年度は，市内小学校7校，中学校3校に22名の「子どもサポーター」を配置し，その支援対象児童生徒は47名に上っているが，その3分の2が特別支援学級の児童生徒であり，通常の学級に在籍する発達障害やその可能性のある児童生徒に対しては，学級担任が一人で対応しなければならない場面が多い。そこで，通常の学級での特別支援教育をどう進めていくかが大きな課題となっている。

このような状況を受け，学習面又は行動面で何らかの困難を示す児童生徒が，その困難さを顕在化させる以前からの早期支援の在り方を研究することが急務であると考えた。さらに，校種を越えた連携により一貫した支援を行うことが，今後一層不可欠になると思われる。これらのことから，小学校1校，中学校1校を指定して研究に取り組むこととした。

3. 指定校について

（平成26年11月1日現在）

指定校名：小城市立三日月小学校												
学級数及び児童生徒数												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	125	4	125	4	124	4	141	4	152	4	123	4
特別支援学級	3	—	4	—	2	—	4	—	2	—	8	—
通級による指導の対象者数	0	—	1	—	2	—	4	—	2	—	1	—
教職員数												
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	相談員	その他	計			
1	1	34	2	4	1	2	5	1	5	56		

- 特別支援学級：知的障害1，自閉症・情緒障害3
- 通級指導教室：LD/ADHD1

指定校名：小城市立三日月中学校										
学級数及び児童生徒数										
	第1学年		第2学年		第3学年					
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数				
通常の学級	142	4	131	4	164	5				
特別支援学級	2	—	3	—	3	—				
通級による指導の対象者数	0	—	0	—	0	—				
教職員数										
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教員	その他	計	
1	1	20	1	6	1	1	2	1	2	36

○ 特別支援学級：知的障害1，自閉症・情緒障害1

4. 指定校における取組概要

[三日月小学校]

<p>(1) ユニバーサル・デザインの考えを取り入れた学習指導の工夫・改善</p> <p>ア. 誰もが理解しやすい一斉指導における指導方法の工夫</p> <p>(ア) 5つの「わかる化（構造化，視覚化，焦点化，明確化，選択化）」を意識した手立て</p> <p>(イ) ICT機器を活用した手立て（電子黒板，タブレット，書画カメラ等）</p> <p>イ. 一人一人のニーズに応じた個別支援の工夫（学習，社会性，注意，運動，言葉，情緒等のつまづきへの対応と支援体制の確立）</p> <p>(2) ユニバーサル・デザインの考えを取り入れた学習環境の整備・充実</p> <p>ア. 場の構造化 イ. 刺激量の調整 ウ. ルールの明確化</p> <p>エ. クラス内の相互理解の工夫</p> <p>(3) 一人一人の特性やニーズに応じた効果的な個別指導・支援</p> <p>ア. 校内における支援体制及び支援会議等の整備</p> <p>イ. Q・U（Questionnaire-Utilities），アセスメントシート，アンケート等による実態把握</p> <p>ウ. 医療機関や専門機関，保護者，三日月幼稚園・三日月中学校との連携指導</p> <p>エ. 発達障害支援アドバイザーによる個別支援と，教員との情報交換や助言</p>

[三日月中学校]

- (1) 「学びをひらく授業づくりのユニバーサル・デザイン」の取組
 - ア. 時間・学習内容・ワークシートの構造化
 - イ. 情報伝達の工夫
 - ウ. 参加の促進
 - エ. テスト・アコモデーション
- (2) 「学びをひらく学級環境づくりのユニバーサル・デザイン」の取組
 - ア. 学級の支持的風土づくり
 - イ. 学習環境づくり
 - (ア) 場の構造化
 - (イ) 視覚的・聴覚的な刺激の軽減
 - (ウ) ルールの明確化
 - (エ) クラス内の相互理解の工夫
 - ウ. 学習のルールづくり
 - (ア) 学習活動や学校生活のルールの指導
 - (イ) 身の回りの整理整頓の指導
- (3) 適切な実態把握等による早期支援の実施
 - ア. Q - U (Questionnaire-Utilities) を活用した生徒個人や学級全体の課題分析
 - イ. アセスメントシート等を基にした学級認知傾向一覧の作成
 - ウ. 発達障害支援アドバイザーによる生徒観察と情報提供

5. 主な成果

- (1) 学習指導の工夫・改善
 - ・ 5つの「わかる化」(三日月小学校)、「学びをひらく学級環境づくりのユニバーサル・デザイン」(三日月中学校)を意識した授業を行うことで、学習に集中できる時間が長くなった児童生徒が増え、学習意欲や教科の目標達成率を向上させることができた。また、継続的な個別支援によって、学習に対する自信や自己肯定感の向上が見られた。
 - ・ 教員が自己の取組状況を振り返るためのチェック票を開発し、ユニバーサル・デザインへの理解や実践への意識を高めた。
 - ・ 中学校では、テスト・アコモデーション(ルビを振る・字体を変える・文字を大きくする・下線を引く等)に基づく問題を作成し、評価の適正化を進めた。
- (2) 学習環境の整備・充実
 - ・ 発達障害の可能性のある児童生徒の実態把握を踏まえ、ユニバーサル・デザインの視点から座席配置や掲示物の工夫、学習用具等の整理のための写真や廊下歩行の補助線など環境整備を行ったことで、学習に集中したり、学校内での基本的な生活の仕方がよく理解できたりする児童生徒が増えた。
- (3) 適切な実態把握等による早期支援の実施
 - ・ Q - Uやアセスメントシート、担任の行動観察などを基に個々の児童生徒の特性や学級集団認知傾向が理解できたことで、効果的な支援の方法が明確になった。
 - ・ サポート計画(全学級を級外教員等でサポートしていくための時間割)をもとに、複数の教員で困難を感じている児童生徒を支援していく体制が整った。また、医療機関・専門機関との連携を密にし、教員が専門的な知識を得ながら一貫した支援を行ったことで、児童生徒のパニックを起こす頻度が減った。
 - ・ 発達障害支援教育アドバイザーがアンケートを分析し、日常の観察の結果も考慮した上で、支援の有効性を明らかにした。
- (4) 小・中連携の取組
 - ・ 小・中学校合同の校内研修会や研究推進委員会を行ったり、移行支援会議の場を設けたりした。特別支援教育の進め方やユニバーサル・デザインの視点を取り入れた授業・環境づくり、各児童生徒の一貫した支援等の共通理解を図って支援を進めることができた。

6. 今後の課題と対応

- ・ 学級の認知傾向や教科指導上配慮を要する児童生徒を意識した授業づくりを、全教員、全教科で確実に行う。
- ・ 発達障害やその可能性のある児童生徒の特性やつまずきに配慮しながら、自ら考え他者と豊かに関わりながら学び合っていく授業の在り方を探る。
- ・ 学級のルール作りや学級の支持的風土づくりを強化する。
- ・ 担任以外の教員が児童生徒と信頼関係をつくり、個別支援の効果を上げていくためには、どのような指導・支援が必要かを明らかにしていく。
- ・ 全教員・全教科等による確実な実践を推進する。
- ・ 研究成果を広く普及させる取組を行う。

7. 問い合わせ先

組織名：佐賀県教育委員会

(1) 担当部署	佐賀県教育庁教育政策課特別支援教育室
(2) 所在地	佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号
(3) 電話番号	0952-25-7475
(4) FAX 番号	0952-25-7409
(5) メールアドレス	kyouikuseisaku@pref.saga.lg.jp